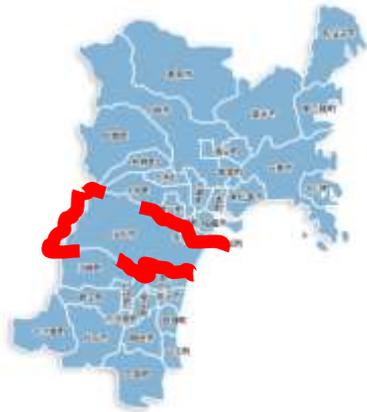




在宅医療連携拠点事業 における当クリニックの 取り組み

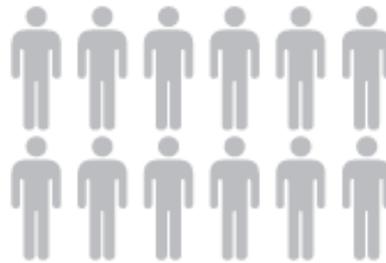
仙台往診クリニック



仙台市の概要

- 人口106万人
- 65歳以上人口
193,263人
- 高齢化率 **18.8%**
65歳以上52%
75歳以上48%
- 在宅死亡率 **20.9%**
(宮城県平均17.9%)

○人口密度
Population Density



1km²に1,335人(平成23年10月1日)

○世帯人員
Household Members



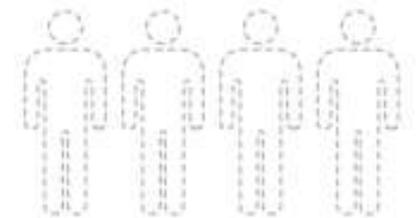
1世帯に2.2人(平成23年10月1日)

○出生
Births



1日に24.3人(平成23年)

○死亡
Deaths



1日に24.2人(平成23年)

仙台市の医療・介護資源

◎医療資源

	ヶ所数	全国平均	
病院（精神科含む）	60		
在宅療養支援診療所	56	5.2(人口10万対)	10.1(同左)
訪問看護	57	5.3(人口10万対)	6.8(同左)
訪問リハビリ	4		
薬局(訪問薬剤指導届出)	263		

○病床数
Number of Hospital Beds



市民81人に1床(平成24年4月1日)

○救急車出動
Ambulance Responses



1日に127.1件(平成23年)

○医師
Physicians



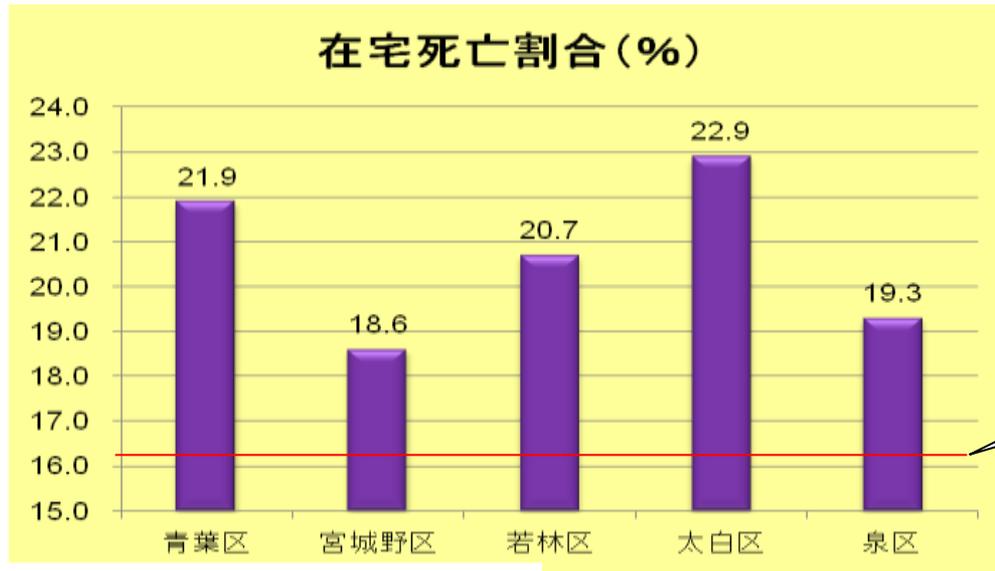
市民306人に1人(平成22年12月31日)

◎介護資源

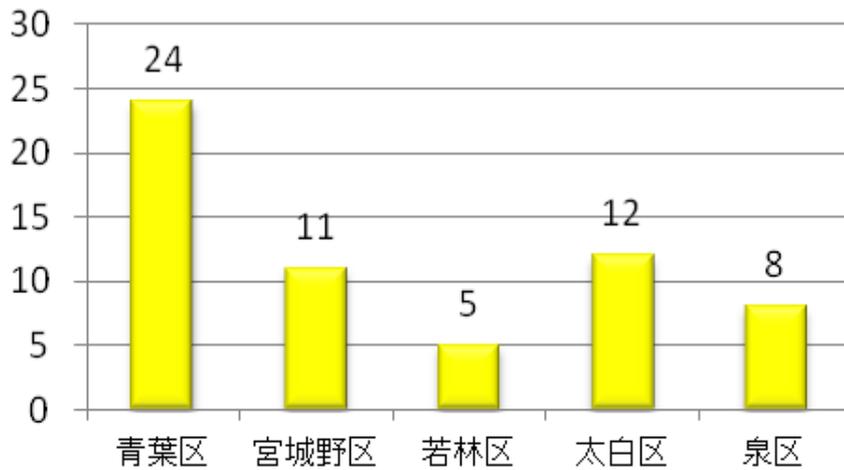
	ヶ所数	備 考	
地域包括支援センター	49ヶ所	中学校区に一箇所設置されている	
居宅介護支援事業所	245箇所		
訪問介護	245箇所	たん吸引が行える事業所 128箇所	
訪問入浴	16箇所		
施設サービス	老人保健施設 26	老人福祉施設 42	療養型施設 2

訪問系事業所数は多いように見えるが、人口10万対で見ると平均より低いのが特徴である。病院は、東北各県から患者が受診することもあり、市内中心部に集中している。

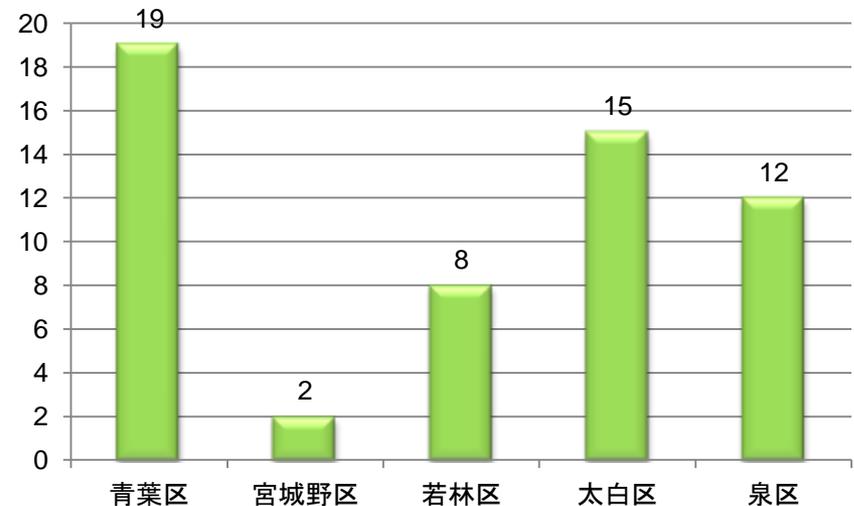
仙台市内 各区の在宅死亡割合と病院等の数



病院数



在宅療養支援診療所



※在宅死亡とは、自宅での死亡及び有料老人ホームでの死亡数の合算を指す。

仙台市の医療と介護の連携に対するこれまでの取り組み

全市レベル

仙台市地域包括支援センター運営協議会
(介護保険審議会がその役割を担う)

◆役割

- ①センターの運営に関すること
- ②センターの職員の確保に関すること
- ③その他地域包括ケアに関すること等

◆実施回数 年に数回

連携

各区レベルによる包括ケア会議

＜地域ケア
全体会議＞

主催：区役所担当課
役割：関係者間の情報交換や連携の促進
地域の関係機関と包括とのネットワークの構築など

構成員：医師会、歯科医師会、区民児協、区連合町内会長協議会、区老連、仙台市老施協、宮城県老健協、区社協、GH協議会、包括等

担当圏域包括ケア会議

主催：各区内の地域包括支援センター
内容：社協、民生委員、町内会、ボランティア、行政などの構成員と地域全体の高齢者に関する情報交換、認識共有等を行う。

在宅ケア連絡会

地域レベルで、医療・介護・福祉に携わる実務者が集まり、事例検討会などの研修会を開催し、連携を深める取り組み
(平成11年～市内11ヶ所)
※構成員は地域で決める。研修会の回数に応じて補助金を交付する仕組み。

仙台市では、平成11年より在宅ケアに携わっている実務者レベルで定期的集まり、在宅療養者に対する医療等の促進のための具体的な方策を検討する場を持っているが、区によってその取り組みは差があるのが現状。

仙台往診クリニックの概要と診療状況

<概要>

○施設区分

・強化型在宅療養支援診療所 訪問専門のクリニック

○人員配置 医師 常勤6名 非常勤10名 看護師9名

○訪問範囲 仙台市全域及び近隣市町村の一部

<診療の状況>

24時間365日の診療体制

患者実数 約530名

総訪問件数(月) 約1300件

看取り(年) 約110名

新規患者(月) 約20名

在宅医療連携拠点事業構想図

仙台市

在宅医療とみんながつながる会

行政(仙台市)、医師会、病院、支援診療科医師会、薬剤師会
訪問看護、理学・作業療法士会
ケアマネ協会、医療社会事業協会 等

- ・顔の見える関係を構築
- ・多職種連携の課題抽出と解決策検討
- ・その他問題となっている事項に関する検討
- ・災害発生時に備えた対応策の検討

若林区

行政(若林区役所)

在宅ケア連絡会

地域包括支援センター連絡会

※復興枠のモデル地区として選定

- ・研修会の共同開催

在宅医療連携
拠点事業事務局

仙台往診クリニック内

- ・事業の企画運営、研修会の開催等
- ・包括支援センター訪問
- ・アンケート調査
- ・社会資源マップ作成⇒つながライン
- ・在宅医療普及のためのパンフレット作成

外部有識者
(助言)

在宅医療とみんながつながる会

参加構成：各団体代表者（医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護ステーション協議会
看護協会、PT会、OT会、包括連絡協議会、ケアマネ協会、老人福祉施設協議会）
その他医療・介護関係者、行政など

第1回	9月26日	64名	①国の動向と在宅医療連携拠点事業について情報提供 ②テーブルごとに意見交換「連携で困っていること。悩んでいること」
第2回	11月28日	78名	①アンケート調査結果及び課題報告 ②ワークショップ 多職種連携における情報共有についての検討
第3回	2月28日	74名	①多職種情報共有システム「つながライン」を使ってみよう！ ②在宅医療普及啓発パンフレット「知っておきたい在宅医療のこと」 ③災害時における通信手段の確保への取り組み



医療と介護における多職種連携上の 課題抽出のための実態調査の実施

<目的> 他施設間・多職種間連携に関する課題の抽出

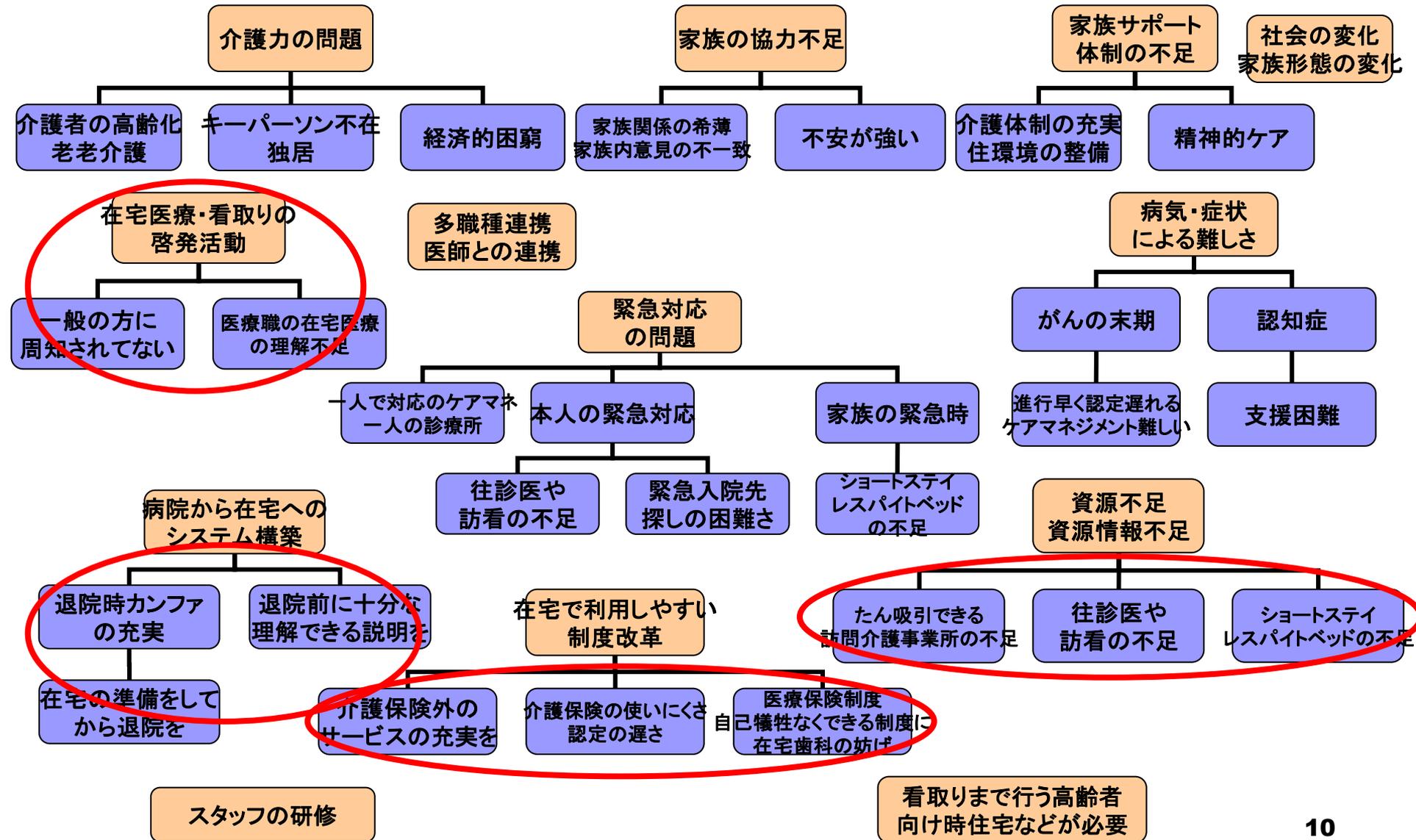
<アンケート内容>

- ① 仙台市内の各事業所の運営体制
- ② 他施設との多職種連携上に必要な情報と施設情報の開示について
- ③ 多職種連携の為の施設情報・患者情報の共有項目
- ④ 多職種間における連携課題
- ⑤ 在宅医療に関する研修

<調査票配布対象先 回収数／配布数>

- ① **病院 36**／60カ所 (宮城県病院名簿 平成24年4月1日現在)
 - ② **在宅療養支援診療所 16**／55カ所 (東北厚生局届出受理医療機関名簿 平成24年8月6日現在)
 - ③ **在宅療養支援歯科診療所 15**／24カ所
(独立行政法人福祉医療機構(WAMNET)検索 平成24年9月1日現在)
 - ④ **訪問看護ステーション 21**／54カ所 (仙台市介護保険サービス事業者一覧 平成24年9月1日現在)
 - ⑤ **調剤薬局 101**／248カ所 ※うち在宅訪問実施は39カ所
(みやぎ薬局検索「在宅医療」参加とある薬局 平成24年9月1日現在)
 - ⑥ **居宅介護支援事業所 92**／245カ所 (仙台市介護保険サービス事業者一覧 平成24年9月1日現在)
- 合計 281**／686カ所 **回収率 40.1%**

在宅で最期まで過ごしたいという方の 希望を叶えるための課題



他施設・多職種連携のための 施設情報・患者情報共有の課題

多職種による情報共有の体制作りを望む声が多かった。

- ポイント**は、①タイムリーな患者情報の共有
②病院、施設間の統一した内容や様式の使用
③電子媒体の利用

多職種情報共有支援ツール「つながライン」の考案



つながラインとは
つながラインは、地域の医療・介護・福祉に果たす役割が
異なる、連携を深めるために、互いに情報を公開し、協働
を図ることが可能なシステムです。病院、医療・介護・福祉
に携わる事業者の連携が中心となっております。ご所属の事
業所ご担当有資格者下記利用方法をご覧ください。



ご利用の場所 利用方法 **システム開発の経緯** 利用上の注意事項
本システムは、厚生労働省所管の平成24年度在宅医療連携推進
事業のなかで実施された、「医療と介護における多職種連携上の課
題抽出のための調査調査」結果に基づき開発されました。
★ 在宅医療の推進と在宅介護支援センターの連携推進を図る
こと
★ 厚生労働省所管
★ 後援施設については下記のとおりです。
(厚労省所管施設)

お問い合わせ先
事業及びつながラインについてのお問い合わせ先は、事務局です。
は、お電話もしくはお問い合わせフォームよりお問い合わせ
事項を明記の上、ご連絡ください。休日、休日はお問い合わせいた
しません。

会員施設数 (平成24年●月●日現在)

病院	●件	高齢者ホーム	●件
診療所	●件	グループホーム	●件
療養施設	●件	特別養護老人ホーム	●件

<名前の由来>

宮城弁では、「〇〇してほしい」ということを「〇〇してけらいん」と言います。

人と人とを結ぶ「ライン」と「らいん」をかけた、「みんながつながってほしい」という思いを込めて、「つながライン」と命名しました。

課題: 加入者を増やし、施設間のやり取りがスムーズになるように、相互に運営の工夫を
図っていくこと。

在宅医療体験実習の実施(12月)

在宅医療 平成24年 12月 3~14日
体験実習参加者募集!



在宅医療を体験してみたいという方のために、「在宅医療体験実習」を予定しております。ご希望の方はふるってお申し込みください。

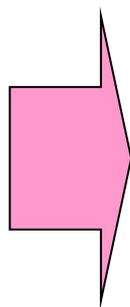
■日時：平成24年12月3～14日(除く土日)のうちの希望日

病院看護師、退院支援担当看護師等
病院関係者を中心に在宅医療についての実習を実施した。

(効果)在宅医療でできることについて、実際を見たので、
退院支援に役立てることができると思う、など。

(課題)継続的に受け入れられる体制づくりが必要。

在宅医療普及啓発パンフレット 「知っておきたい在宅医療のこと(すごろく付き)」



仙台市を中心に
3万部を配布

研修会の共同開催

若林在宅ケア連絡会 平成24年度講演会

対象：若林区内の医療・介護・福祉事業所従事者

日時：平成25年3月12日（火）18:30～20:00

内容：

◆講演

「チームもりおか」による多職種連携の実践

講師：在宅医療連携拠点事業所チームもりおか 所長 板垣園子 氏

◆情報提供

「多職種情報共有システムつなぐラインの提案」

発表者： 仙台往診クリニック 在宅医療連携拠点事業担当 佐々木みずほ

今後の課題

- ①つなぐラインの浸透と継続の体制構築
- ②たん吸引等が行えるヘルパーなど人材の育成
- ③在宅医療に関する地域住民への普及啓発